

## Study Abroad Case 3

# この経験を誇りに思い、将来に繋げていきたい

大浦 詩帆

「『再見！』また会いましょう。私の帰りを待っていてください。」1年間の台湾留学を終えた高校2年生の夏、そう約束して離れた台湾の街や友人たちの涙が忘れられませんでした。そして「いつかきっと約束を果たす時がくる」と、その時すでに感じていました。

長崎県の小さな高校から夢にまで見た早稲田大学社会科学部へ進学。入学後は充実を絵に描いたような大学生活を送りながらも、漠然とした物足りなさや将来への不安を感じていたちょうどその時、国立臺灣大学社会科学部と社会科学部の箇所間協定に基づく交換留学プログラム第1期生の募集が行われました。

**半期または1年間という留学期間、交換留学協定に基づく学費相互免除制度、社会科学系分野の様々な科目群といった本留学プログラムの**特徴は、充実した日本での大学生活に少し物足りなさや不安を感じていた私にとって、ぴったりの内容でした。

そして何より、高校時代台湾で交わした「約束」を果たすことができる絶好の機会でした。

国立臺灣大学での留学生活は私にとって2度目の台湾留学でしたが、言語的な壁や、そこから生まれる不安や恥ずかしさが常に立ちまわり、科目登録から期末試験まで四苦八苦の毎日でした。しかし、**どんなときも決して一人ではなく、台湾人の優しい国民性に助けられ、同じ悩みを抱えた世界中から集まった留学生と励ましあい、**時には日本にいる家族や友人に支えられながらも、貴重な時間を過ごすことが出来たと感じています。

大学時代という特別な時期に1人母国から離れて台湾で留学生として過ごす中で、私の中国語力は格段に上達し、様々な学問的な学びがありました。経験や、苦勞、出会いを数字や記号で証明することは難しいかもしれませんが、だからこそ私は**この経験を誇りに思い、将来に繋げていきたい**と感じています。

この半年間での経験に感謝し、将来、手を差し伸べてくれた人たちへの恩返しができるよう、早大生としての次のステップを踏み出したいと思います。



**Personal Data** 大浦 詩帆 (おおうら しほ)

留学先：国立台湾大学社会科学部 (台湾) EXプログラム (箇所間協定)

留学期間：2015年9月～2016年2月 (留学時の学年：2年生)

ゼミナール：マーケティング管理研究 (野口智雄ゼミナール) 所属